



### 3.3 情報倫理に関するテーマの選択

受講生は、プレゼンテーションで扱うテーマとして、筆者が提示した情報倫理に関する9つのテーマから原則として自由に1つ選択した。ただし、特定のテーマに受講生が集中しないよう、選択可能な人数をクラス人数の2割までを上限に設定した。選択状況を受講生間で共有できるように、学習管理システムである、Moodleの投票機能を活用した。

### 3.4 相互評価の実施

作品制作後の第14回の授業で、Moodleのフォーラム機能を活用したクラス単位での相互評価を授業時間中に実施した。フォーラムに、物語部分の説明文やアピールポイントをまとめた文章とともに作品のファイルを添付した記事として投稿することで、クラス全体に公開させた。

取り組みやすさを考慮し、評価項目をまとめた紙の評価シートを配布して、自己評価、自分と同じテーマの作品1つ、他のテーマの作品2つを評価させた。その結果を評価した作品が添付されたフォーラム上の記事に反映させた。評価項目は次の6つで、各項目とも1～5点の5段階、合計で30点満点となるが、反映させたのは評価の合計点のみである。

- (1) 色づかいやフォントなどのデザインの統一
- (2) 図形や文字などのレイアウトの見やすさ
- (3) アニメーションや画面切り替えの適切さ
- (4) 物語部分と選択したテーマとの一致
- (5) 対処や注意点などの解説のわかりやすさ
- (6) 全体的な内容のレベルと役立ち度

なお、評価結果はMoodleのフィードバック機能を利用してクラスごとに集約し、個人ごとに結果(自己評価、他者からの評価の平均)にまとめ、印刷したものを第14回の授業で受講生に配布した。

### 3.5 演習問題の作成

選択したテーマへの理解を深めることを目指し、自分の作品を視聴した人に向けて、テーマに対する理解度を確認するための3択形式の問題と解説の作成を、第14回の授業で試験的に行った。単に知識を問うだけでなく、注意すべきポイントや解決策に関する判断を問うように指示した。

## 4. 実践結果

### 4.1 テーマの選択結果

各テーマの内容とすべての受講生が選択した割合をまとめた結果を、表1に示す。学科によって選択状況は多少異なるが、「迷惑メール」、「嫌がらせ・誹謗・中傷」は自分や知人が被害にあった経験があるという理由で、「ネット詐欺」は対処方法が知りたいという理由で選択する受講生が多かった。つまり、これらのテーマは、これからインターネットを利用していく上で身を守るために役立つテーマと認識されたようである。

表1 テーマごとの選択結果 (n=164)

テーマ	選択率 (%)
個人情報の漏えい	8.3
嫌がらせ・誹謗・中傷	15.6
迷惑メール	18.3
売買のトラブル	10.6
コンピュータウイルス	10.6
不正アクセス	2.2
著作権の侵害	12.2
ネット詐欺	13.3
情報の信ぴょう性	8.9

### 4.2 相互評価の結果

授業時間中に実施したことで、作品を提出した8割以上の受講生間で相互評価が成立した。ただし、欠席者の影響もあり、1作品あたりの評価人数は、予定していた3人を下回る約2.8人となった。

自己評価と他者による評価では、自己評価の平均が21.2 (SD=4.0)、他者からの評価の平均が25.0 (SD=3.0)で、他者からの評価のほうが高く、分布(図2)をみると高評価に偏っている。自分の作品に高い評価をしてもらいために相手に高い評価をつけてしまう「お互い様効果」<sup>(1)</sup>が生じた可能性がある。

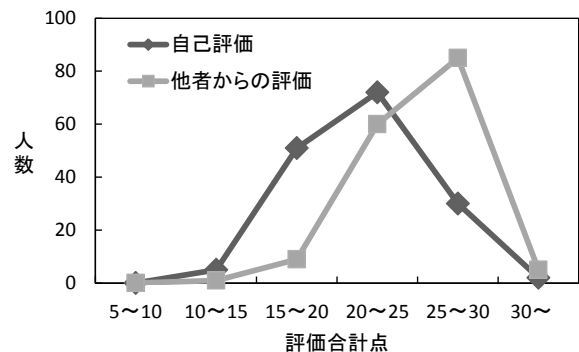


図2 自己評価と他者からの評価の分布

## 5. まとめ

実践後のアンケート調査からは、作品制作がICTの利用において情報倫理を意識するきっかけとなったことがわかった。また、相互評価が情報倫理の学習にも役立つと受講生が捉えたこともわかった。

今後は、今回試みとして行った演習問題の作成も含めて、複数の活動を効果的な組み合わせた協同的学習など、情報倫理に対して理解をより深められるような工夫や改善にさらに取り組みたい。

### 参考文献

- (1) 藤原康弘, 大西仁, 加藤浩: “公平な相互評価のための評価支援システムの開発と評価—学習成果物を相互評価する場合に評価者の選択で生じる「お互い様効果」—”, 日本教育工学会論文集, 31(2), pp.125-134 (2007)